尿管鏡検査を
受けられる患者さんへの説明文書

東京女子医科大学　泌尿器科

説明書

検査の名称	尿環境検査

説明項目

1. 診断名（病気の名前と進行度）

■ 腎盂腫瘍や尿管腫瘍、腎盂移行部尿管狭窄、尿管狭窄、その他（　　）などが疑われます。

2. 病気の説明（どこに、なにがおきてどうなっているのか）

■ 腎臓～尿管までの尿路に、できもの（腫瘍性病変）や狭窄が疑われる。

■ （　　）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3. 目的および必要性（なぜこの方法が提案されたのか）

■ 上記を診断するために、腎盂や尿管の形態を評価することが望ましいと考えられます。

4. 方法（なにをどうするのか）

■ 検査は手術室で施行します。

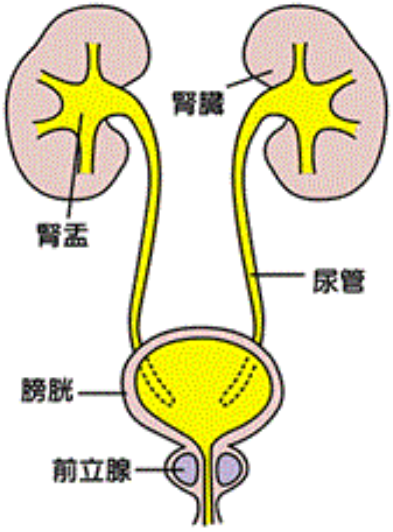
■ 両足を開脚する姿勢（砕石位）になります。所要時間は３０分～１時間程度です。

■ 全身麻酔ないし腰椎麻酔をして、尿道に麻酔成分入りのゼリー（キシロカインゼリー）を注入します。

■ 尿道に膀胱鏡を挿入し、尿管の膀胱への出口（尿管口）を確認します。ガイドワイヤーを尿管口に挿入し、それに沿わせて尿管に細い管（尿管カテーテル）を入れます。

■ カテーテルに沿って尿管鏡を挿入します。

■ 検査中は適宜レントゲンを用いながら、腎盂・尿管の形態を評価します。病変が疑われる部位の阻止子を採取します。



5. 受けた場合の予想される経過（期待されること）

■ 検査結果は、主治医からご説明します。

6. 危険性および起こりうる合併症について（心配されることや副作用）

検査は安全に行われますが、下記のような合併症がおきることがあります。

■ 疼痛・違和感：膀胱鏡や尿管カテーテル、造影剤注入時に伴うことがあります。

■ 感染：滅菌された器具を用いますが、検査後膀胱炎のような症状がでたり、腎盂腎炎・前立腺炎などを起こし熱が出ることがあります。

■ 血尿：膀胱鏡やガイドワイヤー挿入により、尿道・尿管がこすれたりして一時的に血尿がでることがあります。通常は自然に治ります。生検部位からの出血も予測されます。

■ 尿管・腎臓の損傷：ガイドワイヤー操作中に尿管や腎臓を傷つけることがまれにあります。

■ 造影剤自体の副作用：まれに注入された造影剤が少量血管内に入り、造影剤へのアレルギー反応が生じることがあります。

■ 尿管鏡挿入不可：尿管が狭く、尿管鏡が通過しない可能性があります。その場合は検査を中止します。

7. 合併症発生時の対処について（費用負担もふくめて）

■ 合併症改善へ迅速に対応します。

■ 感染：予防するために、検査後数日抗生剤を内服していただきます。また、十分な水分補給を行って下さい。発熱した場合は点滴の抗生剤を使用することがあります。

■ 尿管・腎臓の損傷：一時的に尿管に細い管（尿管ステント）を留置することがあります。

■ 造影剤アレルギー：症状をみて、抗アレルギー薬の投与など対処を行います。

■ なお、合併症が発生した場合も、一般的には医療保険で対応いたします。

８．受けない場合の予測される経過、代替手段（他の治療法）

■ 組織診断を行わず、手術治療を行う。

９．説明内容の理解と自由意思による同意承諾およびその取り消しについて

■ いったん同意をされた場合でも、いつでも撤回することができます。 やめる場合は、その旨を担当者へ連絡してください。

■ この処置に同意されるかどうかは、患者様の意思が尊重されます。 同意されない場合でも、不利益を受けることはありません。

尿環境検査を受けられる患者さんへの説明文書
東京女子医科大学泌尿器科学教室
Department of urology, Tokyo women’s Medical University.

以上の点について説明を受け、よく理解し、検査に同意します。

年　　月　　日　　患者氏名：

患者家族氏名：
1)

---
2)

---
3)

その他、特に説明した内容
a)

---
b)

以上の点について、患者、患者家族に十分説明しました。

説明日：　　年　　月　　日　　施行予定日：　　年　　月　　日

診療科名：　　説明医師：